

2021年シマアオジ報告会

2022年2月15日(土) 13:30-14:15

サロベツ湿原センター + オンライン

天塩郡豊富町上サロベツ 8662

主催 環境省北海道地方環境事務所

協力 日本野鳥の会道北支部

開会

13:30

挨拶 稚内自然保護官事務所 国立公園保護管理企画官 柴原崇

講演

13:35-14:15 (質疑応答 5分)

・サロベツにおけるシマアオジの繁殖と海外状況の紹介

長谷部真 (NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク)

閉会 14:15



イラスト：廣瀬実穂子

講演要旨

サロベツにおけるシマアオジの繁殖と海外状況の紹介

長谷部真（NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク）

シマアオジはスズメ大の小鳥で、日本では北海道に夏鳥として5月から8月に滞在し、草原の地上に巣を作り繁殖する。秋になると大陸経由で渡り主に東南アジアで越冬する。1980年代までは北海道の草原に広く分布していたが、1990年以降急激に減少し、2015年以降はサロベツ湿原のみでしか繁殖が確認されなくなった。世界的にも1980年から2012年の間に個体数の84-94%が減少したと推定された。減少の主な原因は中国等における密猟や生息環境の悪化とされている。サロベツでも1990年代以降分布が減少し、2017年に31つがいが確認されたのみである（環境省事業）。2017年以降シマアオジのつがい数は減少傾向が続き2021年は18つがいだった（環境省・日本野鳥の会事業）。繁殖期全般に渡り姿が確認された繁殖地は1箇所のみとなり、2018年以降幼鳥の姿は確認されていないため、繁殖個体群消滅の危機が続いている。

一方で海外ではシマアオジの標識・発信機調査により渡りの状況が明らかになってきており、中国で保護ランクが上がるなど保全対応も実施されている。数が回復している国や地域があり明るい兆しもある。

サロベツ湿原センターではこれまでに引き続き2021年にシマアオジ展示やTシャツの販売により普及啓発活動を実施した。オンラインでは陸鳥モニタリング会議・日本鳥学会・東アジア鳥学会の自由集会でシマアオジについて発表や今後の保全活動について話した。

今後もシマアオジ繁殖個体群の回復のために繁殖調査や普及啓発活動を継続していきたい。